

—大雪山のアイヌ語地名①—

前回はカタクリの花の群落で、旭川市民を楽しませてくれる突哨山を紹介した。突哨山のもう一つの魅力は、ここから見える、大雪山連峰と十勝岳連峰の眺望の素晴らしさである。

旭川市の魅力のひとつは、町のどこからでも、大雪山連峰と十勝岳連峰が見えることである。掲載写真は、筆者の住む、秋月第一町内会の『創立四十五周年記念誌』の扉に用いた。

旭川のアイヌの人達も、この景観に感動して、「熊祭り」には、下の「ウポポ」(upopo) 踊り歌(「を必ず歌い、神(熊)に聞かせがいのある名歌として、盛んに歌われていたという。

た(「花咲町七丁目の) 雪山」を表していたものである。見た大雪山連峰と十勝岳連峰である。本来のカラー写真で見せできないのが残念である。

断章 旭川のアイヌ語地名研究

167

高橋 基

なお、この歌での「オプタテスケ」は、現在の「オプタテシケ」ではなく、古い時代の「大

【註】上の上段は、昭和二十八年発行の倉光秀明著の『上川アイヌ熊祭り』からの引用である。また、下段のローマ字表記は、井筒勝信編の『アイヌ語旭川方言資料集成1』(二〇〇四年、北海道教育大学教育学部旭川校発行)によったものである。

ウポポ	upopo
ハウ	haw usa
声 諸々	haw wo
ハウ	haw wo
声 集	haw o
ハウ	haw o
声 集める	haw o
オプタテスケ	outa teske
大雪山の峰高く	outa teske
プルプルケ	purpurke
空にそびゆる	purpurke
ニシクルカアタ	niskur ka ta
雲の上に	niskur ka ta
カネポンゼツポ	kane pon cegpo
金の小魚輝いて	kane pon cegpo
カムイ エシノ	kamuy esinot
神が遊んで	kamuy esinot
エフン	e hum
るらっしやる	e hum
エッサウウハウ	essa ui haw
エッサウウハウ	essa ui haw
エッサウウハウ	essa ui haw

川を丸木舟で下った時に、大雪山を見て、「ヲツタテシケ」と表記している。

近藤重蔵は、師の最上徳内の教えで、日本語の発音にない、アイヌ語の「t」を、徳内と同じように、「ツ」と表記した。このように、近藤重蔵は、当時としては最高級のアイヌ語の理解者であったといえる。それ故に、文化四年頃の上川のアイヌの人達は、大雪山を「ヲツタテシケ」と呼んでいたと判断することが出来るのである。

今回は、近藤重蔵や、間宮林蔵、松浦武四郎たちが、「大雪山」をどのようにアイヌ語表記したのかを調査していきたい。

当連載の(163)で、文化四年(一八〇七年)に、近藤重蔵が比布の番屋から、石狩

アイヌ語地名研究会幹事
※毎月第1週号に掲載
します